

<p>1 プロジェクト名</p>	<p>意見交換会</p>
<p>2 実施日程</p>	<p>準備期間:9月～ 開催日:12月13日 13:00～14:40</p>
<p>3 実施内容</p>	<p>●企画概要：学生、職員、教員でより良い大阪教育大学を創っていくための対話、意見交換をする企画。</p> <p>●企画背景：今日までの大阪教育大学を創ってきたのは学生、職員、教員だが、日ごろこの3者で話し合う機会はない。結果として、学生のリアルな声を届けられなかったり、お互いの理解不足から「すれ違い」が生まれていることに課題意識を感じたことが企画した背景。</p> <p>●当日までの準備の流れ</p> <p>9月下旬 ポスターとビラの完成。</p> <p>10月中旬 ポスターとビラの印刷・掲示。以下の「訴求方法」で学生のパネリスト募集開始。学生パネリストは「意見交換会」公式LINEを追加し、参加登録を行う。その際、討論したいテーマも送る。</p> <p>10月下旬 学生パネリストの募集とテーマを締め切り。2人の参加者を獲得。テーマに合った教職員を募る。</p> <p>11月上旬 学生パネリストと何度かオンラインで面談を行い、テーマと発表内容を一緒にブラッシュアップしていく。当日の流れやグラウンドルールなどの資料作成。</p> <p>12月上旬 開催場所の確定。参加者全員に企画の開催日時や場所などのリマインドメールを送る。</p> <p>●訴求方法</p> <ol style="list-style-type: none"> ①A1サイズのポスターを7枚学内に掲示。 ②ビラを約500枚配布。 ③学生広報団体「DAIKYO PRESS」のインスタグラムアカウントにて広告を約2週間の間1日に1回投稿。 ④本企画の運営メンバーの周囲の人間に勧誘。 <p>ポスターやビラ用の広告を3種類作成。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="225 1563 526 1966"> <p>学生×教員×大学職員で、共により良い大阪教育大学を創っていくための「意見交換会」を行います。</p> <p>「わたしたちの大教、つくるのはあなた自身。あなたの想いを、あなたの声を、誰かにも届けてほしい。」そんな思いでこの企画を立ち上げた。</p> <p>3つのテーマ（①学生生活 ②国際活動 ③留学やボランティア）から選択。そのテーマに関して改善したい内容を応募してください。</p> <p>採択された方は、パネリストとして参加していただきます！</p> <p>開催時期：11月下旬</p> <p>※詳細は各団体公式LINEアカウントで検索してください。</p> <p>※本発表日までに各自の準備が完了してください。</p> <p>参加や質問はこちら</p> <p>学生プロデュース会「意見交換会」</p> </div> <div data-bbox="576 1570 869 1962"> <p>わたしたちの大教、つくるのはあなた。諦めず、声を届けよう</p> <p>学生×教員×大学職員で、共により良い大阪教育大学を創っていくための意見交換会を行います。</p> <p>皆さんには、3つのテーマ（①学生生活 ②国際活動 ③留学・ボランティア）から選択。そのテーマ大衆して話し合いたい内容を考えてほしいです。採用された方はパネリストとして参加していただきます！「上手に意見を伝えますか」という点も話し合いと準備のサポートをさせていただきます。</p> <p>学生プロデュース会「意見交換会」</p> <p>11月下旬 開催！</p> <p>※詳細は各団体公式LINEアカウントで検索してください。</p> <p>※本発表日までに各自の準備が完了してください。</p> <p>参加や質問はこちらから→</p> </div> <div data-bbox="895 1559 1177 1951"> <p>大学への改善策・提案などトークテーマを募集中！</p> <p>学生生活 国際活動 留学・ボランティア</p> <p>学生×教員×大学職員 意見交換会</p> <p>11月下旬ごろ開催！</p> </div> </div>

4 経費の使途

【配分額 30,000 円】

事 項	数 量	単 価	金 額	備 考
B5 コピー用紙	1 パック	461 円	461 円	大学生協に販売している商品と同様のもの。
大判プリンタ印刷費 AI 光沢紙	9 枚	600 円	5400 円	
印刷費 (ちらし フルカラー) 10/17	200 枚	6 円	1200 円	
印刷費 (ちらし フルカラー) 10/19	101 枚	6 円	606 円	
印刷費 (ちらし フルカラー) 10/20	199 枚	6 円	1194 円	
合 計			8861 円	

5 プロジェクトの成果

●開催日時

2023年 12月13日 13:00~14:30

●当日の参加者

- ・学生：3人
- ・大学教員：6人
- ・大学職員：1人

●当日の様子

・発表時の様子



・ディスカッションの様子





●意見交換会の議事録（まとめ）

※参加者の名前は匿名にしてあります。

①テーマ：「明確なキャリアイメージを持つには」

発表

- ・発表者自身の将来の迷い(多様な選択肢がある/教職への不安 etc.)
- ・学生に行った調査によると... (自分の進路を決めているか? 大学へのキャリア支援の満足度)
→教職への不安が多い。
→キャリア支援には75%が充実していると答えている。
→教職への支援は充実しているがそれ以外の選択肢の情報が少ない
→キャリア支援の情報が届いていないのではないか。

キャリアについての情報とキャリア形成の支援を低回生のうちから多くの学生に届けられるようにしたい

・提案

- 情報にアクセスしやすくする
- スケジュールの都合により、参加できない学生に向けて、資料・アーカイブ動画を、Moodle 等を通じてアナウンス/ポスターなどを利用したアナウンスをする
- 上級生と関わる機会が増えてほしい⇒自分のキャリア形成を考える材料の一つにする

ディスカッション

学生A： 大学側から見て学生のキャリア支援の課題は何か？

教員A： 教員養成大学として、学生が教員になれない(教採に受からない)ことが課題。学生が大学に求められているもの、大学が社会から課せられているものの間にはズレがある。大教に入った学生は先生になるとみられる。キャリア支援となると、教職に関する支援が最重要となる。

学生B： 教職の魅力を伝えていくためにはどうすればいいのか？

教員A： 難しい。ニュースなどを見て不安になる学生もいるが、大学教員・職員は不安を解消できるように授業内で伝えている。授業そのものがキャリア形成につながっているとも考えられる。

学生B： 授業内で意識していることは？

教員B： 授業で特に意識はしていない。大学生が将来のキャリアに対して迷いがあるのは自然。

学生 B： 学生が自分のキャリアについて考えるのは自然だが、本学では教職免許を取る関係で、将来のキャリア形成について低回生から考えなければいけない。彼らにとって低回生のうちからキャリアを決めることは重要。

学生 C： 教員になれる資質を大学・社会から求められている。教育に関する情報しか入ってこない。教育以外の情報が入ってくる機会があれば、視野が広がる。教育に関する授業が多く、他の分野を学ぶ機会が少ない。

教員 B： この大学のミッションは良い教員を育てること。

職員 A： 数えきれないほどの業界がある中でどこまで学生にキャリアのサポートをするのか？全ての業界に関する支援をすることはできない。

学生 C： 就活のプロセスに関するフォロー(就活の面接をどうすればいいのか等)。先輩方のお話を通して、自分のキャリア形成について考える機会になればいい。

職員 A： 進路も幅広いので、学生が主体的に見つけてほしい。面接指導を低回生から行うことはニーズが無いために難しい。教育以外の他の分野に興味を持っているなら、編入・転籍を選ぶこともできる。教員養成大学であるため、教職支援に偏ってしまうのは当然。自分のキャリア形成には責任を持ったうえで自分で取り組んでほしい。

学生 A： 転籍・編入という選択肢は新しい発見。

(どこまでのサポートが欲しいのかという質問に対して) 新しい分野への開拓は不安なので、他の道に進んだ人への話を聞けると、新しい選択肢を踏み出す一歩につながる。上回生とのつながりも含め、他の人の話を聞ける機会が欲しい。

職員 A： キャリア支援センターとしては様々な講座を開いたり多くの支援の機会をつくっているが、学生のイベントの出席率が非常に低い。

学生 A： そのイベントに行くことのメリットがわかっていないのかも。

職員 A： キャリア支援は他の大学と同レベルで行っているのに、年々参加者の数が減少している。学生にイベント等のサポートの情報がいきわたっていないのか、それとも学生が行きたくないのか。前者であれば、何か対策方法はあるか？実際に学生はキャリア支援センターをどれほど活用しているのか？

学生 B： 大学のサポートは利用せず、リクナビやマイナビ等のサポートを活用していた。キャリア支援センターを利用せずに就活をする人が多かった。低回生のうちからキャリア支援センターを利用する習慣がつけば継続して利用してくれるかも。

学生 A： あまりキャリア支援センターのイベントに関心をもつ学生が少ない印象。

教員 A： 大学生で将来に不安を抱えているのは当然だし、みんなそう。大学からの支援によって正解がもらえるわけではないということを念頭に置いて、自分がなりたい道について勉強するべき。

学生 B： 様々な業界について紹介するセミナーはあるのか？

職員 C： ない。具体的な問題点や自分が興味のある業界についての相談などをキャリア支援センターに持ってきてくれれば、それに対するサポートを行う。(業界などを)すべて教えるのではなく、自分から進んで

情報を集めた上で相談に来てほしい。

学生 C： コロナ禍入学の世代のため、人とのつながりが薄く、先輩の話を聞けるという機会は大きな意味を持つ。キャリアの幅を広げるために、情報をもっと手軽に入手できるアクセス方法はないのか。

(まとめ)

教職員： 教員養成大学であるということを考えると、キャリア支援は教職に偏ってしまう。やはり学生が主体的にキャリア形成をしてほしい。

学生： 学生としては大学の支援を通して教育以外の多様な情報が欲しい。

②テーマ 「体育施設の老朽化、広報活動、体育会幹部運営」

※テーマを提案した学生の病欠により課題の共有のみ

③テーマ 「学生のイベントや講座等への参加を促すにはどうすればいいのか」

SNS やビラ配り、ポスターなど様々な方法を使って宣伝をしたとしても、課外活動や学祭、就職イベント、学生企画、GLC 等の大学のイベントへの学生の参加が非常に少ない。

↓

情報は行き届いているはず。考えられる原因は、

→学生にとって大学が授業を受けるだけの場所になってしまっている。

→コロナの影響でそもそも大学に行く習慣が…。気軽に集まれる場所が学内に少ない。

学生 B： 学生の参加を促すためにどのような方法が考えられるか？

教員 A： 参加者が多ければ多いほどいいというわけでもないので、企画にどれくらいの人を集めたいのかを考える。

職員 A： キャリア支援センターのイベントでも一桁しか集まらない。Live Campus での周知方法について模索している。学生はどうしたらその情報を見してくれるのか。

学生 B： 身近な人に対するメールが一番効果的だった。留学先の大学では Discord を使用していた。もちろんセキュリティの問題もあるかもしれないが、ある程度オープンな呼びかけができていた。

学生 C： 強制的に参加を促すのはよくないが、インスタなどの SNS を通してオープンな宣伝はした方がいい。知ったとしても参加する学生が増えるとは限らないが、次の参加を希望する学生が出てくるのでは。

教員 A： パラリンピックの日本代表選手を呼んだ企画は大成功した。しかも宣伝方法は、ポスター掲示のみ。つまり、学生が集まるかどうかはその内容の魅力による。企画自体をもう少し面白いものにできれば人は集まる。多様なエンタメが溢れている今日、自分たちの企画を選ばせるくらいのものでできるか。また、その魅力をどう伝えるのか。学内のイベントは外のエンタメに比べたら魅力的なものではないのかもしれない。ある程度許容しながら、学生の魅力をひきつけられる企画をつくる必要がある。

教員 C： 対象にしている「学生」は誰か？留学生は対象にされているのか？そういった区別ががなされてしまっていると、自ずと人が集まらない。全員を対象にすればいいというわけではないが、誰を対象にするか明確にする必要がある。その人が行きたいと思うようにするにはどのように届けるべきなのか考える。

●企画の成果

意見交換を通してそれぞれの課題に対するわかりやすい結論が出たわけではないが、日ごろあまり関わり合いの無い三者（学生、教員、職員）の置かれている立場や状況、考え方をお互いに理解することができた。

●振り返り

普段あまり話を聞くことができない教職員の方々の意見を聞くことができたのでとても新鮮でした。何よりも話し合いに参加していて楽しかったです。ただ、三者それぞれに置かれている立場や思い、価値観があって、出てくる意見のあらゆる部分にそれを感じました。だからこそ、議論が収束することはありませんでしたし、この話し合いによってそれぞれの考え方の違いがより大きく見えてきたと思います。しかし、それによってお互いの理解は深まったと思います。大学の中でこの三者が関わる機会がもっとあれば大学の大きな魅力の1つになるなと思いました。